

(概要版)

# 小学校における「言語活動の充実」にかかわる調査研究

— 教科による指導と校内研修の取組に視点を当てて —

長期研修員 岩間 昌央

## 主題設定の理由

### 学習指導要領の改訂

言語活動の充実を図ることを明記

### 全国学力・学習調査の結果

国語・算数で「読む」「書く」を関連させた問題の正答率が低い

### 課題

- 国語科の領域同士を関連付けた活動を他教科でも実施できるようにすること
- 学校全体で指導の重点や方法に偏りや差が生じ、内容に対する手だてを考えること

### 調査のポイント

- ◆ 県内の小学校における国語科を基軸とした言語活動指導の実態や傾向を明らかにします。
- ◆ 言語活動にかかわる校内研修の実施や研修内容を把握します。



## 仮説

三領域を関連させた指導を国語科で実施している学校は、算数科・社会科・理科においても国語科を基軸とする三領域の内容を関連付けた指導を実施しており、校内研修においても言語活動の充実が図られている。

## 調査内容と方法

### 調査対象

- 県内の小学校から200校を抽出
- 低・中・高学年の担任各 1名
  - 教務主任

### 調査内容

- 国語科の三領域9分類の視点から国語科・算数科・社会科・理科における指導の実施状況及び国語科との指導の関連を調査
- 言語活動の充実を図る校内研修の実施状況及び校内研修と教科指導との関連を調査

### 調査の視点

#### 求められている言語活動

従来の言語活動は言語事項として国語科の三領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」（以下、「話す・聞く」「書く」「読む」とする）の各領域の資質能力を高めることに重点が置かれていた。

#### しかし

今の時代に求められている資質・能力は、読み取ったことを根拠に話し合ったり、話し合ったことをもとにして文章を書くといった、領域を関連させた言語活動である。

### 分析の視点

#### ●実施傾向と未実施傾向をみる

##### 実施傾向

→実施度強と中の回答数の和

##### 未実施傾向

→実施度弱と未実施の回答数の和

- 4教科の言語活動の実施について学年ごとに平均値を算出し、国語科との相関をみる

三領域を関連させた言語活動項目9分類を考えました！

## 教科では

分類を基に国語・算数・社会・理科の言語活動を設定し、実施度を調査します。

## 研修では

言語活動を中心にした研修の実施度や言語活動に関する研修の内容や方法を調査します。

## 三領域 9分類

### 三領域9分類

話す・聞く

・ア	「話す・聞く」×	「話す・聞く」
・イ	「書く」×	「話す・聞く」
・ウ	「読む」×	「話す・聞く」

書く

・エ	「話す・聞く」×	「書く」
・オ	「書く」×	「書く」
・カ	「読む」×	「書く」

読む

・キ	「話す・聞く」×	「読む」
・ク	「書く」×	「読む」
・ケ	「読む」×	「読む」

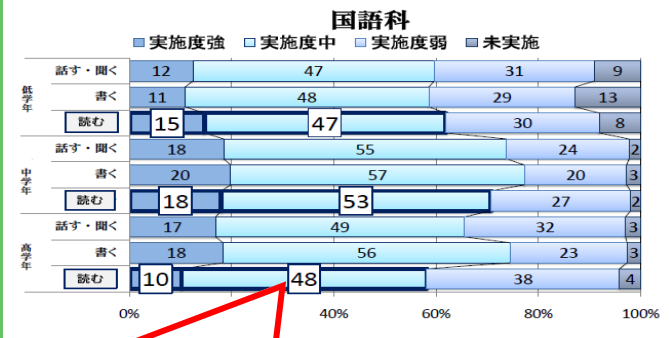
“書く”と“読む”  
を関連つけた活動は  
三領域は 「読む」  
9分類は 「ク」  
に分類します



# 三領域の実施状況

注目!

「話す・聞く」「書く」の実施傾向が高く「読む」活動の実施傾向が低い!



学年ごとの実施平均の比較では、低学年において「読む」活動の実施傾向が強くなっているが、学年が進むにつれて実施傾向が弱まり未実施傾向が増加する。「書く」活動は「読む」活動と逆の傾向を示し、低学年で実施傾向が弱く、学年が進むにつれて実施傾向が強くなる。

国語

社会

「書く」活動の実施傾向が強く、特に中学年での実施傾向が他の活動と比べて非常に強い。反対に「読む」活動の未実施傾向は強く、学年が進むと改善するものの、全体として半分の実施にとどまる。三領域の活動の実施差がもっとも大きい。

算数

学年が進むにつれて三領域全体の実施傾向が増加し未実施が減っている。全学年を通じて「話す・聞く」の実施傾向が強い。「読む」活動の未実施傾向が他の活動と比べると強くなっているが、学年が進むにつれて未実施は減少していく。

理科

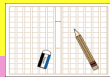
全体的な実施傾向が高く三領域全ての活動が80%を超えている。未実施の回答も他教科と比べると弱い。「読む」活動が「話す・聞く」「書く」と比べ実施傾向が弱くなっているが、他教科の「読む」活動よりは実施傾向は強い。

## 9分類の実施状況

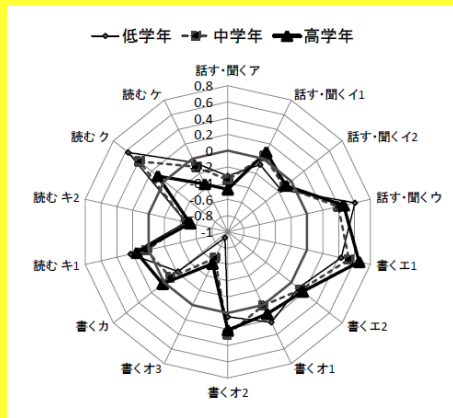
(左)は項目全体の平均値と各項目の平均値との比較  
(右)は質問項目 を示しています!



国語

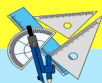


項目エ1やウの実施傾向が強くなっていることと合わせみると、感想や意見を求める活動の実施傾向が強いことがうかがえる。クの項目である読み直す活動は、低学年での実施傾向が強い。学年が進むにつれて実施傾向は弱くなり、それとは逆に図や文にまとめる活動は高学年に向けて増えている。

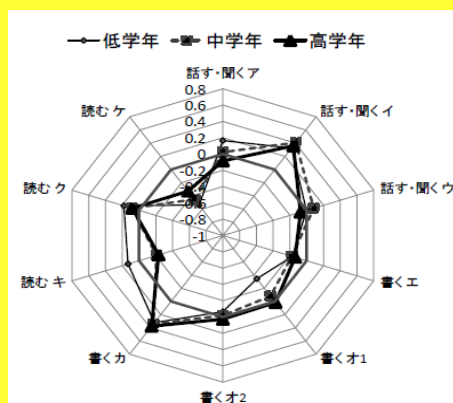


話す・聞く	ア	話合いの内容や人から聞いたことを、他の人に連絡すること
	イ1	簡単にまとめた図や文について発表したり説明したりすること
	イ2	自分や友達を書いた文について話し合うこと
書く	ウ	読み取った文章の内容について意見や感想を述べること
	エ1	読み取った文章の内容について感想や意見を書くこと
	エ2	聞いたことや話したことについて簡単な文にまとめること
読む	オ1	観察・記録・報告文などの様式に合わせた文を書くこと
	オ2	メモや自分が書いた記録から文を書くこと
	オ3	自分が書いた文を簡単な図や表にまとめ整理すること
	カ	読み取った文章の内容について簡単な図や文にまとめること
	キ1	話合いや説明・発表の内容を正確につかむこと
	キ2	説明や発表を受けて、内容と関連する図や資料を探し読むこと
	ク	自分が書いた説明や記録、文やメモの内容を読み直すこと
	ケ	読んだ本や資料の内容と関連する文章や資料を読むこと

算数



問題を解決するための根拠を示す活動と、考えを説明する活動である項目イ、カの実施傾向が強くなっている。図や表に書き表す活動は、低学年では低いが、学年が進むにつれて実施傾向は強くなる。全体的に計算や処理の表現についての実施傾向が強くなっている。

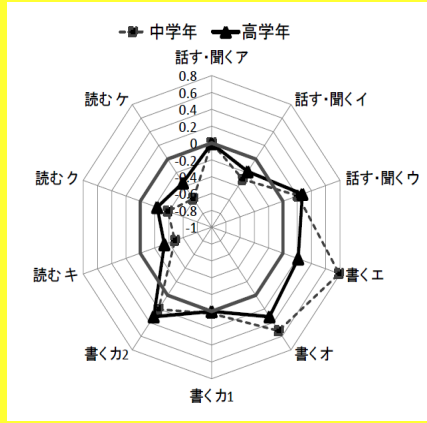


話す・聞く	ア	自分の説明や発表について他の人から意見を聞くこと
	イ	自分の考えを書いた図や文について説明すること
	ウ	テキストに書かれていることから考えたことを図や式と関連付けながら説明すること
書く	エ	発表や説明、話合いを基にして自分の考えを図や文に表すこと
	オ1	自分で書いた図や表についての考えを書くこと
	オ2	計算の仕方や意味について自分で書いたものを図や表に整理すること
読む	カ	問題を読み取り、解決方法について図や言葉で書き表すこと
	キ	話合いや説明を参考にして問題文を読むこと
	ク	自分が書いた説明や図、計算の意味を確かめること
	ケ	図や表と関連する資料を比較して読み、違いについて考えること

# 社会



中学年において項目工「見学で見たり聞いたりしたことを、メモや記録として残すこと」の活動が突出している。項目キ、ケに相当する学習と関連する資料を収集する活動の実施傾向が著しく低く、高学年になっても実施傾向は低い。

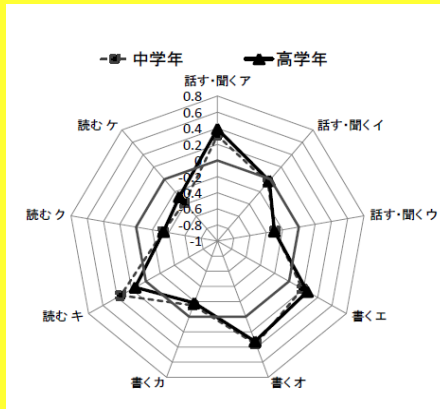


話す・聞く	ア	自分の説明や発表について他の人から意見を聞くこと
	イ	社会的事象について考えを書き、それを基にして話合うこと
	ウ	資料から必要な情報を読み取り、その内容について話合ったり発表したりすること
書く	エ	見学で見たり聞いたりしたことを、メモや記録として残すこと
	オ	見学のまとめやメモから分かったことを新聞や図にまとめること
	カ1	さまざまな資料から読み取った情報を基にして地図や表に表すこと
	カ2	資料から必要な情報を読み取り、内容について新聞や図にまとめること
読む	キ	説明や発表を受けて、内容と関連する図や資料を探し読むこと
	ク	自分や友達を書いた説明や記録、文章やメモの内容と関連する図や資料を探し読むこと
	ケ	考察に必要な資料を読んだ後、関連する資料をさらに探して読むこと

# 理科

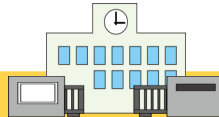


予想や仮説に関する項目ア、工の実施傾向が高く、実験や観察の考察やまとめを書くオの実施傾向が高くなっている。観察や実験の結果から考えを深めたり広げたりする項目に相当するイ、ウ、クについては他の活動と比べ実施傾向が低い。



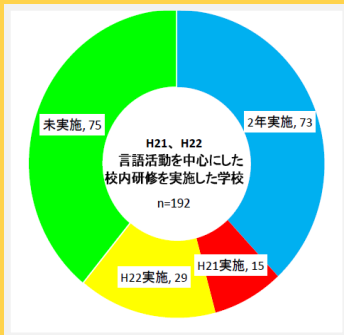
話す・聞く	ア	予想や仮説について話合うこと
	イ	観察や実験の結果について自分の考えを書き、書いた内容について話合うこと
	ウ	内容に関連する資料を読み、考えたことを話合うこと
書く	エ	予想や仮説について話合い、その結果を書き表すこと
	オ	観察や実験の記録から、考察やまとめを書くこと
	カ	図や表、グラフから読み取ったことを書き表すこと
読む	キ	話合った内容について、教科書等で確認すること
	ク	観察や実験の記録を、お互いに読み合うこと
	ケ	観察や実験を記録したものを読み合い、違いについて考えること

## 校内研修の実施状況



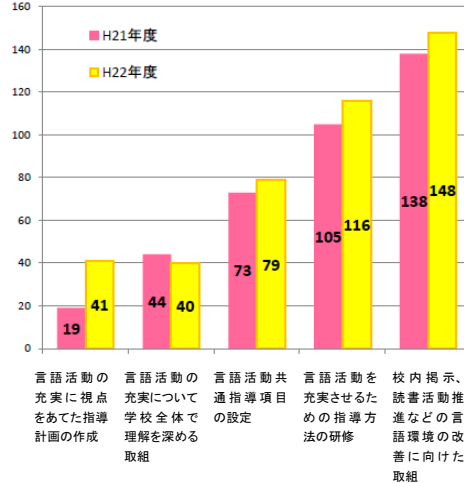
## 言語活動の充実を意図した研修内容

### 言語活動を中心にした校内研修の実施



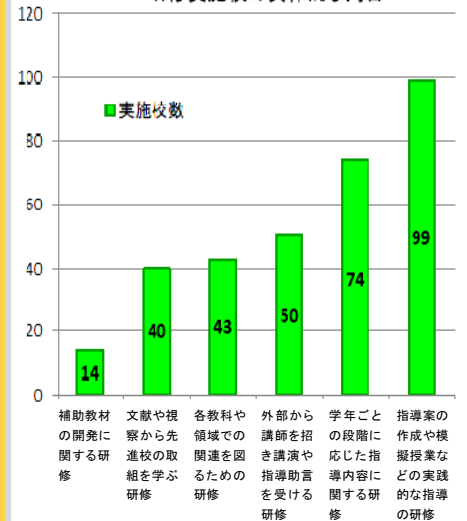
言語活動を校内研修の中心に位置付けた取組の実施については、H21年度H22年度の両年実施の学校が69校、H21年度のみ実施が15校、H22年度のみの実施が28校。この2年間に言語活動を校内研修の中心に位置付けて研修を行った学校は112校となり、調査対象の62%に達することになる。

言語活動に関する研修の実施内容



以前から行われている校内掲示や読書環境に対する取組が最も多く、次いで言語環境の充実させるための指導方法に関する研修の取組が昨年度より増え、H22年度は回答校の半数を超えた。指導計画の作成については41校程度にとどまる。

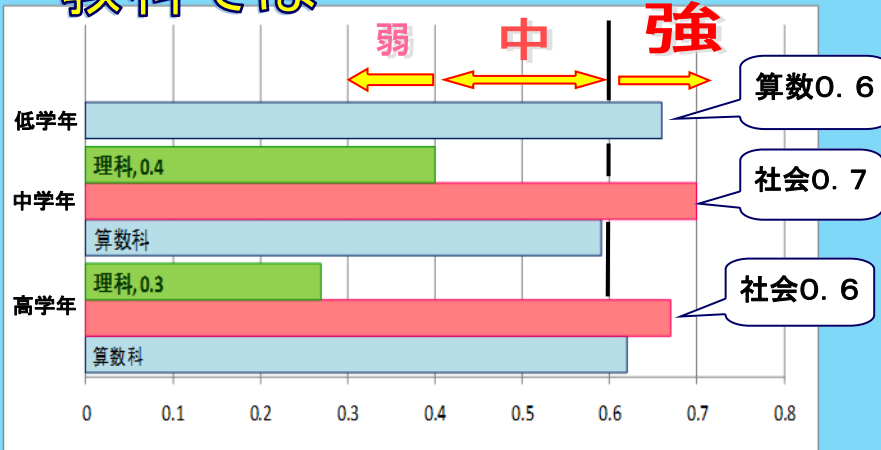
研修実施校の具体的な内容



校内研修の具体的な内容で最も多かったものは、指導案の作成や模擬授業などの実践的な研修であり、次いで学年ごとの段階に応じた指導となった。

## 国語科と他教科の言語活動実施の関連

### 教科では



国語科の指導の実施度と各教科の指導の実施度は、教科で関連があることが明らかになった。その中でも中学年社会科の指導で強い関連がある。

数値は関連の強さを示します。相関係数(+0.200~+0.399)を低い正の相関、(+0.400~+0.599)をやや高い正の相関、(+0.600~+1.000)高い正の相関とみます。数値の大きい方が国語科との関連性が強いことを示しています。



### 校内研修では

H21年度とH22年度に、言語活動を中心とした研修を実施した学校と未実施の学校とで、国語科と他教科の指導の関連度を比較した。その結果、実施群に強い関連傾向が見られた。教科別に見ると高学年の理科を除いて校内研修を実施した学校の方が低・中・高学年ともに強い関連性がある。

### 調査の結果から

- ◆ 三領域では「話す・聞く」「書く」活動の実施傾向が強く「読む」活動の実施傾向が弱い。
- ◆ 国語科だけでなく算数科・社会科・理科において言語活動を実施するに当たり、9分類における各教科の特性が明らかになった。
- ◆ 校内研修で言語活動を実施することで国語科と他教科との指導連携が深まる。

## 提言

- 国語科を基軸とした三領域を関連付けた言語活動を意識し、三領域をバランスよく実施しましょう。
- 教科指導の特性を考えながら、9分類のバランスを心がけ、各教科で不足する言語活動は他教科で補いましょう。
- 校内研修で言語活動に関する校内研修を意図的に実施しましょう。

### 問い合わせ先

群馬県総合教育センター

担当係：高校教育研究係 0270-26-9214 (直通)